

こども家庭庁 こども家庭審議会
幼児期までのこどもの育ち部会 様

認定こども園連盟
会長 宮崎 啓

幼児期までのこどもの育ち部会 基本的な指針（仮称）の策定に関するヒアリングについて

<社会認識の転換のための粘り強い対応>

今回お示し頂いた「こどもまんなか」社会を確実に進めていくためには、「こどもの育ち」や「子育て」を地域や社会全体で捉えて頂く事が肝要といえ、まさに「社会の認識を転換」していく必要があります。「社会の認識」は一朝一夕で転換されるものではないので、本指針の理念が広く社会に浸透されるよう、必要な施策の展開と粘り強い対応を期待しております。

<「余白」のある環境整備>

こどもを守る一義的責任を負う保護者・養育者が、仕事と子育ての両立が厳しいほどに時間や精神的に追われている、あるいはそのこどもと養育者双方を直接支える保育者がギリギリの配置基準の中で増え続ける業務に忙殺されているといった「ゆとり」のない状況では理念が絵に描いた餅になりかねません。

「こどもまんなかチャート」に示されるような階層ごとに「厚み」と「大きさ」のある支援実現のためには、「仕事と子育ての両立支援」などと併せて、こどもと養育者双方の主な支え手である私達保育者も「ゆとり」や「余白」をもってかかわりができるよう、医療現場に見られるような専門性に応じた労働分担の実施など、幅広い環境整備が重要だと感じております。

<こどもまんなかをつなぐ HUB としての施設>

私達全国の「教育・保育施設」は「こどもまんなか」社会を実現していく中において全国を網羅した最も身近な拠点であると考えられ、「こどもが過ごす空間」であるだけでなく「地域の空間」となることもできると考えております。そういった「空間」の中で、こども・保護者・養育者・直接接する人・こどもを見守る人・地域社会を構成する人を「つなぐ」HUB としての役割もこれまで以上に期待されており、私達がこれに応えられるよう施策の検討・策定をお願い致します。

<基礎自治体の大きな役割>

本部会のテーマからそれるかもしれませんが、人口減少下、あるいは人口減少地域において「幼児期までのこどもの育ち」の「空間」あるいは「拠点」をどのように捉え、デザインしていくのかという意味において、基礎自治体の果たす役割や責務は大変重いと考えられます。「こどもまんなか社会」の実現に向けて基礎自治体が主体的にその役割を果たすことを期待しております。

以上